



続！「学力がつかない方法」～第二弾「家庭編」～

これこそ、きりめつけの**墮落法**です！



- (1) 家に帰ったら、学校で習ったことと関係のある学習はしないようにしよう。
- (2) 宿題はできるだけしないようにしよう。宿題というのは、その日に習ったことばかりで身につくように復習の手助けとなったり、次の授業にスムーズに入れるように予習の手助けとなったりするものだから、これをきちんとやってもらうと学力がつかない。だから放っておかぬがよい。やめていかなければ先生に叱られるという人は、朝友だちに見せてもらい、それをうけてから「ハイ！やりましょ」と誇らしげに言えよう。
- (3) 自分から進んで机に向かてはいけません。できるだけ家の人に「勉強はさい！」とか「宿題はないの？」と言われたら、とりあえず机に向かうのです。机に向かえば、と家の人にも安心するでしょう。あとは何とでももうまくやればよいとありません。まさに**墮落の道**へまっしぐらです。
- (4) 勉強するならダラダラやりましょ。テレビ見たマンガ読んだ音楽聴きながらやるというです。スマホを触りながら数学の問題を解くのもよいでしょう。つり、今や、ていることと関係ないことと一緒にやることです。
- (5) 予習・復習は延べ、練習問題もしてはいけません。練習問題をやってほうと、計算が速くなったり、解く力が身についたりします。さらに恐ろしいことに、応用力までついてしまうのです。せっかく学力をつけたいように努力しても、いつの間にか学力がつかない。こうなれば、もう手遅れなのです。。。

なんぞ
じ
て
て
い

—— 今週の全校集会の中で東先生から**“106人全員で取り組もう”**と、力強く指導が入りました。ただし、教室から無言で体育館に入場する！！
難しいことではありません。全員が本気で取り組めばできないことはないと思います。おたく、下事徹底、ですね。私的には、下事徹底を『おたく、下事』のことも人並み以上に一生懸命やる』
と仰っています。元々においさつをする。授業中の黙想をきちんとする。聞く、書く、話すの
区別をきちんとする。よく食べ、よく学び、よく遊ぶ。
よくよく考えたら、むしろ漢字を10個覚える方がよっぽど大変なことですね。
さて、みなさんにひとつお願いです。それは返事についてです。大きな返事は許すのは大変よ
いことですが中には「はいーい」や「おーい」といった返事が耳に入ります。やはり返事は「短く、
“強く、”は、きりいた方が爽やかで誠実さが伝わります。これらは意識して「はい！」
と短く言うように取り組んでみてください。

野口晴哉「朕の時期」

大正から昭和の時代に、「整体」で天才的な能力を發揮した野口晴哉（のぐち はるちか）という人がいました。著書「朕（しつ）の時期」の一部を紹介いたします。

—— 僕は人は学校生活とどのように考えたら過ごしていいか？一日の生活の中に与えられた役割を果たす場面が妙にことに気がつく。でも、それで「やらされている」という言葉に

少し悩んでいませんか？ その思いが強くなってほうと自分から役割が「きつい」と感じてしまうかもしれません。では「成長したい」と思ったら役割を果たさなければならぬでしょう？
おれは「きつい」のは一層おもしろい。むしろ大冒険が生まれる。
それは「充足感」です。野口さんの言葉を借りれば、「心地よいきつさ」と言うのではありません。



人間は、何かやりたくないと力が湧いてくる。雨はあがたければ冬の冷たい風が吹いてくる。山登りしたいという心があれば重い荷物を受けなければならない。しかし「持たされた荷物」ならどう思うだろう。きつと重たくて仕方ないだろう。—— 略 ——